

項目	観点	教科書名								
		新編 新しい社会 歴史(2・東書)	中学社会 歴史 未来をひらく(17・教出版)	社会科 中学生の歴史 日本の歩みと世界の動き(46・帝国)	中学歴史 日本と世界 改訂版(81・山川)	中学社会 歴史的分野(116・日文)	新しい歴史教科書(225・自由社)	新しい日本の歴史(227・育鵬社)	ともに学ぶ人間の歴史(229・学び舎)	国史教科書(236・令書)
1 学習指導要領の教科の目標を達成するために取り扱う内容の選択について	○平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を育成するために、どのような配慮がされているか。	・導入資料や章の冒頭や節の中で「なぜ～はこうしたのか」「この時代の人々はどうのように暮らしていたのか」といった問いかけから探究心を刺激し、歴史的観点を多面的・多角的に考察する力を養うよう配慮されている。 ・「チェック&トライ」では、短時間の説明・要約などで学習内容をまとめることで思考力・判断力・表現力が高められるようにしている。	・教科書の冒頭に学習の進め方や歴史の見方・考え方についての特集を設けて、多面的・多角的に学習に取り組めるようにしている。 ・「LOOK!」、「TRY!」、「THINK!」などの活動が設けられ、資料を活用しながら学習を深められる工夫がなされている。 ・「歴史の窓」や「歴史の技」のコーナーにより本文とは違う視点から学ぶことができるように配慮されている。	・「学習を振り返ろう」では、作業的な課題などで歴史的な見方・考え方を働かせることを促し、社会的事象を多面的・多角的に考察する力を養うよう配慮されている。 ・学習内容を活用して思考を促し、自分なりに判断・表現する問いが設けられていることにより、思考力・判断力・表現力が高められるようにしている。	・時代を通した視点やグローバルな視点で見たテーマなど10のテーマを「歴史へのアプローチ」で取り上げることで、多面的・多角的に考察する機会を設けている。 ・各章の最後に、まとめのページが見開きで用意されており、政治史・経済史・社会史・文化史など多様な視点で自分の言葉で基礎・基本の確認とまとめを行うことができるように工夫されている。 ・様々な立場を考慮した叙述が重視され、価値観が異なる立場の資料も取り上げられている。	・課題探究時に「スキルUP」などの、動画コンテンツから事象を様々な視点から読み取るにより、多面的・多角的に考察する力を養うよう配慮されている。 ・「トライ」や「資料活用コーナー」など随所で生徒が自分の言葉で表現できるように構成することで、思考力・判断力・表現力が高められるようにしている。	・歴史的事象や出来事について、異なる視点から分析する活動を通して多面的・多角的に考察する力を養うよう配慮されている。 ・人物伝記を書く設定を設け、学習したことを自分の言葉でまとめることにより、思考力・判断力・表現力が高められるようにしている。	・課題解決型の学習が展開できるように、「歴史ビュー」や「人物クローズアップ」のコラム等を提示し、自分のテーマについて深く掘り下げ、多面的・多角的に考察する力を養うよう配慮されている。 ・「課題学習」として具体的な調べ学習の事例を紹介し、資料を活用して自ら調査が進められるように配慮されている。	・興味を引く課題揭示や歴史の具体的な場面を示し、それぞれの時代の歴史像をつかめるようにするなど、多面的・多角的に考察する力を養うよう配慮されている。 ・「なぜ～なのか。」「何をねらったのか。」などの問いかけがあり、生徒自ら思考するきっかけを作っている。	・世界各国の王朝年表により、歴史を日本中心の一元的視点ではなく、多面的・多角的に捉えることができるようにしている。 ・図や表、年表、写真など様々な種類の資料から歴史的事象を比較検討できるように工夫している。 ・文献資料が現代文に訳されていないので、当時の視点で読むことができる。
2 内容の程度及び取扱いについて	○主体的・対話的で深い学びを実現するためにどのような工夫が見られるか。	・「みんなでチャレンジ」コーナーでは、思考ツールを活用し、会話から他者の意見を取り入れ、自分の意見を調整していく活動を設定することで、主体的・対話的で深い学びが実現するような工夫が見られる。 ・1時間の学習課題が大きく提示されていて、見通しをもって主体的に学習に取り組むことができるようになっている。 ・探究のステップでは、単元全体の問いを設定することで生徒が見通しをもって主体的に学ぶことができるようになっている。	・各章の導入で、当時の暮らしの資料を示し、生徒の興味・関心を高めている。 ・1時間が見開きのページになっていて、学習課題から振り返りまでの学習の流れが見通せる構成となっている。 ・歴史の学習の最後に、男女平等・環境保護・国際協調の3つのテーマから調べて発表する活動を設けるなど、SDGsの視点から、主体的な学びができるように工夫されている。 ・学習内容を象徴する言葉をタイトルとすることで、生徒が意欲的に学べるようになっている。	・「章の問い」「節の問い」といった問いが構造化され、考察する活動を設定するなど、単元の中での主体的・対話的で深い学びが実現するよう工夫が見られる。 ・「章の振り返り」では、自分の考えを整理し、自分の言葉で説明する流れは、「深い学び」を実現する構成となっている。 ・「歴史を探ろう」では、様々な情報から個に応じた発展的な学習ができるように配慮されている。	・「歴史を考えよう」、「地域からのアプローチ」などの特設ページで、歴史的な事象について主体的に学ぶことができるよう工夫されている。 ・「ステップアップ」の発問が用意されており、毎時間より「深い学び」への問いが用意されている。 ・1時間ごとの学習課題が明確に示されていて、生徒が何を学ぶか簡単に理解することができる。 ・各ページの問いが多様な発問となっており、主体的・対話的で深い学びを促している。特に、時期や理由・経緯・差異などに着目できるように工夫されている。	・「歴史を学ぶ」というページを構成し、主体的に取り組むことができる課題を設定したり、グループでの話し合いや意見交換を促す対話的な学びのステップが提示したりすることで、主体的・対話的で深い学びが実現するような工夫が見られる。 ・単元最初の見開き「学習のはじめに」では、問いから疑問や答えを予想する活動を通して、生徒が見通しをもって学習に取り組むことができるように工夫されている	・歴史上の重要な人物や事件について詳細な説明を加えることによりその影響や背景について考察できると、主体的・対話的で深い学びが見られる。	年表や資料を読み取り、時代の特色を説明したり、「Try」などグループでの意見交換の場も設定されたりと、主体的・対話的で深い学びが実現するような工夫が見られる。	・章末の学習のまとめでは、各時代の特色を考察して発表する活動を設定するなど主体的・対話的で深い学びが実現するような工夫が見られる。	・「考えよう」という問いが、随所に掲載され、自ら学ぶことができるように工夫されている。 ・新聞や年表にまとめたり、ディベートをしたりなどの活動的な学習が時代区分ごとに用意されており、生徒が自ら考え学びに向かうことができるようになっている。また、市町村歌を調べることににより、身近な地域に着目し、主体的な学びを促している。 ・細かい史実まで記載され、歴史が好きな生徒は主体的に学ぶことができる。
3 内容の配列・分量	○単元の構成や教材の配列にはどのような特色があるか。	・各時代の重要なテーマやトピックに関する特集が設けられており、時代の大きな流れの中で特定のテーマについて深く学ぶことができる。 ・近代以降の人物には、出身県を示すことで、郷土にゆかりのある人物を意識できるようにしてある。 ・単元導入時に小学校で習った言葉を掲示することで、つながり意識した内容の配列になっている。	・各章の導入の「学習のはじめに」で単元の予想を立て、各章末では「学習のまとめと表現」を設けるなど配列に特色が見られる。 ・日本の通史を学ぶだけでなく、身近な地域の調べ学習が、定期的に設定されている。 ・キャラクターが資料の読み取りや、考察を促すようにし、学習の流れに即して調べ学習ができるようにしている。	・各章の導入にイラストでその時代をイメージする「タイムトラベル」を示し、単元の展開で「イラスト世界地図」を示し、章末で「時代の特色を説明しよう」を設けるなど配列に特色が見られる。 ・教科書初めにSDGsの見開きを掲示することにより、持続可能な社会について意識を高めている。	・各章の導入で、年表を中心に、学習内容を示すことで、学習への見通しをもち、興味・関心が高まる構成になっている。 ・ページを色分けし、世界史の内容と日本史の内容を分けて考えることができるように工夫されている。 ・各ページにある用語解説が詳細なものになっていて、調べ学習を進めやすい構成となっている。 ・世界の歴史が詳細に叙述され、現在の国際情勢との関連が意識されている。	・単元導入時に見開きで資料を掲示し、気付いたことから問いを立てることにより見通しを持って学習活動を行える工夫がある。 ・見開きページには、時代・世紀のスケールがあり、学習している時代や世紀の前後の時代が常に確認できるように工夫されている。	・各章の最初のページに、新旧を比較できる資料が掲載し、各章末では、「調べ学習」「復習」「時代の特徴を考える」ページが設けられ、各章の展開で、学習内容の理解を深めるための「もっと知りたいコラム」を示すなど配列に特色が見られる。	・人物コラムを多数設け、人物の解説を詳しくしている点に工夫が見られる。 各章の導入に歴史の大きな流れをつかむための「鳥の目で見える歴史絵巻」を示しているなどの特色が見られる。	・各章の導入にテーマに基づいたそれぞれの時代の世界地図を描く「章の扉ページ」を示し、章末では「章をふりかえる」を入れるなど配列に特色が見られる。	・古代と近代に多くのページを充てて、古代までの日本の学習や近代国家の歩みと二度の世界大戦の学習が深まるような特色が見られる。 ・各時代区分の学習の最後に、まとめの問題が掲載され、定着度を確認しながら学習に取り組むことができる。
4 表記・体裁・資料	○用語や写真、動画・音声やアニメーション等のコンテンツなどの使用上の便宜等については、どのような工夫が見られるか。	・QRコンテンツから、動画やワークシート、学習の振り返りなどが用意されていることで、学習段階に応じて、個別最適な学びを支える工夫が見られる。 ・復元写真や想像図など、歴史が実感できる資料が豊富に掲載されていることで具体的なイメージをもって学習できるようになっている。 ・年表スケールインデックスが掲載されていることにより、歴史全体の中での位置づけが把握しやすい。	・小学校で既習した人物と中学校で学習する人物を、表記でわかるようにしている。 ・二次元コードから、各種コンテンツにアクセスして、学習に取り組むことができる。復習や自主学習などの個別最適化された学びができるようになる。 ・巻末の年表は、100年ごとに区切りがあり、時代の流れが理解できるようポイントが掲載されている。また、文化の動きや世界の歩みが独立しているので分かりやすい。	・見開きデザインやグラフなどには、色覚特性をもつ人にも識別しやすい色や模様が使用されるなどの工夫が見られる。 ・「人物コラム」のコーナーが、49名が分設けられ、歴史により親しみが持てるように工夫されている。 ・QRを読み取り、様々なコンテンツを活用して個別最適な学びができるよう工夫されている。	・因果関係を重視して本文が細かく記述されている。 ・二次元コードからアメリカの新聞記事など幅広い各種資料にアクセスできる。また、NHKアーカイブスから動画を見ることもでき、個別最適化された学びに対応できるようになっている。 ・高校との接続を考え、常体で記されている。また、高校で扱う史資料を口語体に直して掲載したり、高校で求められる概念について詳しく説明したりしている。	・QRコンテンツから確認小テストなど、生徒の学習到達度に応じて教師が柔軟に提供できる教材が設けられている。 ・SDGsに関連の深い教材については、マークを付して、SDGsについて考えられるようにしている。 ・イントロダクションムービーを視聴することにより、これから勉強する内容の関心を高める工夫がされている。	・コラム、ミニコラムを多数掲載し、歴史への興味関心を湧かせようと工夫が見られる。歴史の言葉を明示して、学習している場面で歴史用語の意味を理解できるような工夫が見られる。	・QRコードを読み取り、動画や写真が閲覧できるようになっている。 ・教科書冒頭には、この教科書の使い方や歴史の学習に仕方について詳しく掲示されている。 ・年表は見開きで設け、シンプルな構成でありながら海外との関係を矢印で示し、分かりやすくしている工夫が見られる。	・A4判の教科書で写真や絵画が大きく掲示されていて見やすい。 ・「フォーカス」によって時代の背景を紹介し、生徒がイメージしやすいように工夫されている。	・側注にキーワードや難解語句の補足説明を加えている。 ・歴史小説や歴史漫画を読むときの注意点がまとめてあり、フィクションへの注意喚起が図られている。 ・A5版で持ち運びがしやすい。 ・縦書きで物語文のように読むことができる。